事業評価シート（まちづくり編）

基本目標	VI	個別目標	2	基本施策	①
計画事業	80	新宿文化ロードの創出			

目的

新宿の文化、観光の振興のために誘致してきた企業及び学校等との連携を軸に、文化と産業を融合するしくみづくりや、新たな新宿の文化、観光、芸術の育成と、ビジターズ産業（賑わい産業）の活性化を図るため、場づくりをしていきます。

手段

靖国通りから青梅街道沿いの一帯を「新宿文化ロード」エリアとし、周辺地域にある商店街、学校、企業等と連携したイベントを実施します。

事業の主な実施内容

平成２０年度

①	新宿文化ロード協議会の開催（7月、9月）	④	
②	新宿文化ロードイベントの実施（10月24日～11月25日） 主催イベント：3　　協賛イベント：15	⑤	
③		⑥	

事業の指標

	指標名	定義	目標水準
1	イベントの実施	観客延人数	年2千人
2			
3			
4			

達成水準

		単位	20年度（現状）	21年度（目標）	22年度（目標）	23年度（目標）	20～23年度	備考
指標1	目標値1①	人	2,000	2,000	2,000	2,000		
	実績1②		17,274					
	③＝②／①	%	863.7					
指標2	目標値1①							
	実績1②							
	③＝②／①	%						
指標3	目標値1①							
	実績1②							
	③＝②／①	%						
指標4	目標値1①							
	実績1②							
	③＝②／①	%						

所管部	地域文化部	所管課	産業振興課

コスト

トータルコスト	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	20～23年度	備考
事業費	千円	8,935				8,935	
人件費		8,449				8,449	
事務費		0				0	
減価償却費		0				0	
総計		17,384				17,384	
財源内訳							
一般財源	千円	17,384				17,384	
特定財源		0				0	
一般財源投入率	%	100.0				100.0	
職員							
常勤職員	人	1				1	
非常勤職員	人	2				2	

評価

視点	評価区分	評価の理由
①サービスの負担と担い手	■ 適切である □ 改善が必要である	区と周辺地域の団体が協議会を開催し事業を実施するうえで、区の主な役割は広報活動としました。その結果、区の負担が少なくなるとともに、各団体の自主性にまかせたイベントが実施できました。
②適切な目標設定	□ 適切である ■ 改善が必要である	参加者数（観客動員数）は事業の効果を計る1つの手段と考えられますが、イベントの特性によっては数値で測れないものもあり、今後数値の見直しや動員数以外の設定を検討していく必要があります。
③効果的・効率的な視点	□ 効果的・効率的である ■ 改善が必要である	参加者数（観客動員数）の少ないイベントがあったため、より効果的な広報周知方法を検討する必要があります。
④目的（目標水準）の達成度	■ 達成度が高い □ 達成度が低い	協議会への参加団体は16団体にのぼり、18イベントが実施され、参加者は指標目標を大きく上回りました。
総合評価	■ 計画以上に進んでいる □ 計画どおりに進んでいる □ 計画どおりに進んでいない	協議会を開催し、区の役割分担を明確にしたうえで事業を実施することで、事業の基本的枠組みが整いました。

進捗状況・今後の取組み方針

20年度状況	状況認識（課　題）		個々のイベントは完成されたものが多く、好評でしたが、周知期間が短く、「新宿文化ロード」イベントとしての一体性をより持たせる必要があります。
	改革方針		イベントの更なる周知や、新たな参加団体を増やしていきます。
21年度評価	20年度実績	改革方針への対応状況	参加団体候補の選定や、広報・印刷物の部数や種類の見直しを行いました。
		課　題	文化の発信と産業の活性化を図るために、「新宿文化ロード」地域の設定や、イベント内容について検討していく必要があります。
	改革方針	方向性	■ 現状のまま継続　□ 手段改善　□ 事業縮小　□ 事業拡大 □ 事業統合　□ 休廃止　□ その他（制度改正等）
		内　容	基本的枠組みは変更せず、参加団体の増加やイベント内容について検討していきます。参加団体については早い時期からの呼びかけを行います。実施イベントについては、主催イベント時期を分散し、効果的・効率的な運営を図ります。また、広報物の部数の見直しを行い、広報周知活動に努めます。